

C—72 X線よりみた最近の和服及び洋服着時衣服圧の内臓に与える影響

和洋女大文家政 ○田口 秀子
宮川 豊美
川村 一男

1. 最近、和服の場合、数本の細紐の代りに特別に考案されたベルトや、改良された帯を用いる新装姿なる着付けが工夫され、また洋服の場合にも旧来のコルセットに代り、材質及び縫製の異なるガードルが用いられるようになってきた。

私共は、これら新装姿による和服着時及びガードル（ハード型・ソフト型）、オールインワン着時の衣服圧が胸腹部臓器に与える影響をX線学的に観察を行なった。

2. 被験者は、18～48歳の成人女子20名で、この中の5名は、殆んど和服で過す者、10名は殆んど和服を着た経験の無い者、残りの5名はこれらのものであった。

X線撮影は空腹時に、それぞれの被験衣服着時と非着装時について、胸部及び腹部の直接撮影を行ない結果を比較した。

3. X線像から観察された胸腹部臓器に対する衣服圧の影響は、横隔膜が押し上げられ、これに伴う胸廓容積の減少と、心臓の右傾度の増大であり、腹部では、胃の噴門から胃体部にかけて横経が狭められ、胃底部の下降がみられ、幽門部から十二指腸移行部の屈曲部が圧迫されることである。旧来の和服着時に最も著明に発現するが、新装姿ではこの影響が極めて少なくなっている。ガードルでは、ハード型よりもソフト型の影響が少なく、オールインワンはこれらのものであった。

また被験者中、和服常用者5名中4名に、高度の胃下垂が観察された。